3. 実際に記事を入手する

第3章では、雑誌記事・新聞記事を実際に入手する方法をご紹介します。

雑誌記事：資料形態のさまざま

復刻版	原本の紙面を撮影・複写などして作製した冊子
マイクロフィルム	原本を縮小撮影したもの。専用の機械で閲覧する
デジタル化資料	原本などをもとにデジタル化した画像。 デジタルアーカイブとして無料公開されているものや、データベース・電子ジャーナルとして販売されているものなどがある。
全集やアンソロジーなどへの収載	雑誌の一記事や雑誌連載が後に別の資料に収載されることがある。 原本との異同有無には注意が必要であり、初出を確認して原本等にあたるほうが望ましい。

まずは雑誌記事の入手方法です。

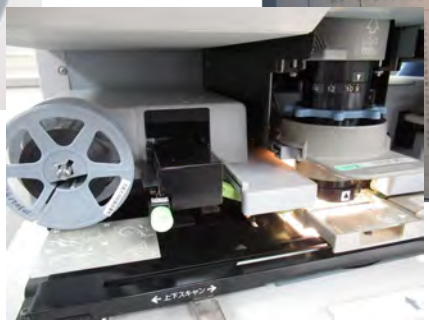
明治～昭和期の雑誌は、メジャーなものを中心に原本以外の形態で出版・提供されているものがあります。雑誌原本を閲覧できればそれに越したことはないのですが、発行から時間が経っていて保管されていないケースも多いです。そうしたときには、複製版で代用することも検討しましょう。

このスライドには主な複製版の形態をまとめました。
復刻版、マイクロフィルム、デジタル化資料は原本をそのまま複製したものですが、表の一番下、全集やアンソロジー（作品集・選集）などへ収載されたものは、原本と異なる可能性もあります。ただ、どこが異なるのか、確認が難しいです。
研究で参照するときには、原本もしくは原本に忠実に再現されている、表の上3つのうちのどれかを使うことをおすすめします。

雑誌記事：マイクロフィルム







表の2番目、マイクロフィルムというのはこの写真のように、原本を縮小撮影してフィルムの形にしたものです。
総合図書館の2階にある、マイクロフィルムリーダーにセットして閲覧します。
印刷することもできます。

新聞記事：資料形態のさまざま

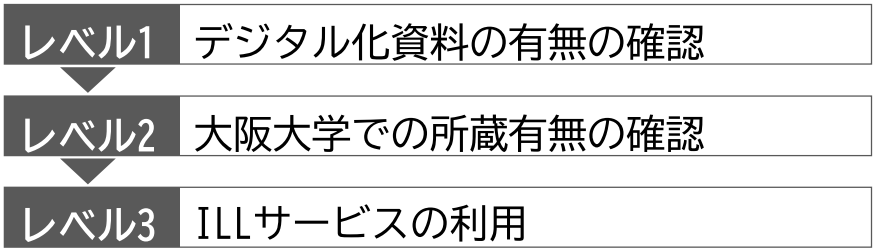
◆ 原紙が保存されていない場合は複製資料からの入手を検討する

縮刷版	原本の紙面を撮影・複写などして作製した冊子
マイクロフィルム	原本を縮小撮影したもの。専用の機械で閲覧する
デジタル化画像 （データベース）	大手紙の場合は、検索ツールとしてのデータベースがそのままデジタル化画像閲覧ツールとなる

つづいて新聞記事です。
新聞の場合、原紙のままで保存されていることはあまりありません。紙質が長期保存に向いていなかったり、保存するには分量が多すぎるというのが理由です。そのため、この表にあるような複製資料にあたるしかないケースが多いです。先ほど紹介したデータベースのほかにも、縮刷版やマイクロフィルムなどの複製物で利用できるものが多くあります。

本文入手に向けた流れ

以下のような優先順位で調査を進めるのがおすすめ



雑誌でも新聞でも、記事本文を手に入れるには、この図のように3段階で調査を進めていくのがおすすめです。
順番にご説明します。

レベル1：デジタル化資料の有無の確認

◆ 基本的には**雑誌・新聞単位**での利用可否を以下の2つで確認

- 大阪大学OPAC および OPACに情報が反映されていない契約データベース
- 国立国会図書館デジタルコレクション

◆国文学研究資料館「国書データベース」の利用

- https://kokusho.nijl.ac.jp/　「近代書誌検索」を選択してキーワード検索

◆機関が雑誌単位でデジタル化して公開されている場合がある

- 東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ「みづゑの世界」
  http://mizue.bookarchive.jp/

まず最初に、デジタル化資料の有無を確認します。
基本的には雑誌・新聞単位での利用可否を確認することになります。
まずは大阪大学で利用できるかどうかを調べ、それから国立国会図書館デジタルコレクションで利用できるかどうかを確認する、という2つの方法がおすすめです。

そのほか、ある機関が雑誌単位でデジタル化して公開していることもあります。
例えば、美術雑誌「みづゑ」のうち明治期のものを、東京文化財研究所がデジタル化して画像公開しています。
ある雑誌に着目して研究している場合は、こうしたデジタル化画像が存在しないか、インターネットで探してみても良いかもしれません。

レベル1：デジタル化資料の有無の確認

◆ 大阪大学で利用できるデジタル化資料（＝電子ジャーナル）

- 基本的には大阪大学OPACで**雑誌・新聞名**で検索可能だが例外あり

◆ 大阪大学で利用できるデータベースのデジタル化資料

- 「JapanKnowledge Lib」のコンテンツ
  - ✓ 風俗画報
  - ✓ 太陽
  - ✓ 文芸倶楽部 明治篇　文芸倶楽部1-3
  - ✓ 滝田樗陰旧蔵近代作家原稿集
  - ✓ 文藝春秋アーカイブズ
- 「太宰治自筆資料集」



データベース一覧に詳細あり

66

大阪大学OPACで検索するときは、雑誌や新聞名で検索しましょう。

阪大で利用できる電子版の雑誌や新聞は、基本的にはOPACで検索できるのですが、例外がいくつかあります。
それがこのスライドに書かれた雑誌です。
これらはデータベースの中に収録されているため、OPACでは検索できません。各データベースから直接利用するしかないので、この分野が関係しそうな方は、頭の片隅に置いていただくと良いかと思います。

レベル1：デジタル化資料の有無の確認

◆ 国立国会図書館デジタルコレクション

- 公開レベルが「ログインなしで閲覧可能」「送信サービスで閲覧可能」のいずれかであれば、お持ちのデバイス（ノートPCやスマホ）で利用可能
- 特定の雑誌の収録有無を調べる便利な方法
  - ✓ 雑誌分類検索　https://dl.ndl.go.jp/ja/serial.html
  - ✓ デジタルコレクションに収録されている雑誌を主題から探すことのできるサイト
  - ✓ 「この分野の雑誌が何か収録されていないか」という探し方をしたいときに便利

続いて、国立国会図書館デジタルコレクションでの検索です。
阪大OPACとは別に検索する必要があります。
国立国会図書館デジタルコレクションでの記事の検索方法は、講習会前半でご紹介したとおりです。
「この雑誌が収録されているか知りたい」というときに便利なサイトもあるので、講習会の後でぜひご確認ください。

レベル2：大阪大学での所蔵有無の確認

◆ 大阪大学OPACを使って各種形態を一括で検索

- 必ず雑誌名・新聞名で検索する（記事名ではヒットしないので注意！）
- 資料形態（原本、復刻版、マイクロフィルムなど）ごとに別々にヒットする
- 所蔵巻号の範囲を要確認

阪大図書館Webサイト



大阪大学で利用できるデジタル化資料が見当たらない場合は、次の段階として、
大阪大学での紙やマイクロフィルムなどの所蔵有無を阪大OPACで確認します。

図書館Webサイトのトップページにある検索窓にキーワードを入力します。
記事のタイトルではヒットしないので、必ず雑誌名か新聞名で検索してください。

レベル2：大阪大学での所蔵有無の確認



例では、「ホトトギス」という雑誌を検索しています。

今回探しているのは雑誌なのですが、関係なさそうなものもヒットした場合には、検索結果を絞り込むと良いです。
こういうときは検索結果を絞り込みましょう。左側の「資料タイプ」の「雑誌」にチェックを入れると、雑誌のみ表示させることができました。

雑誌「ホトトギス」では、5件ヒットします。
雑誌の出版年を見比べてみると、ひらがなの「ほとゝきす」だったのが、明治35年からはカタカナの「ホトトギス」へ名称が変わっています。こうしたときは別の雑誌としてヒットします。

さらによく見てみると、「復刻版」と書かれた雑誌もあります。5件のうち、3件は復刻版です。

このように、OPACでは原本や復刻版、タイトル変更などで別々にヒットすることがあります。
読みたい記事が載っている号はどこに含まれているのか、しっかりチェックするようにしましょう。

レベル2：大阪大学での所蔵有無の確認

◆ OPACなどでの所蔵巻号の読み取り方

- 多くの雑誌は「巻」「号」の2階層だが、1階層のみの雑誌もある

数字	雑誌の「巻」を表します。
かっこ内の数字	雑誌の「号」を表します。
- (ハイフン)	前後の数字の間の巻もしくは号が 全て所蔵されていることを表します。
+	現在も継続して購入中であることを表します。



OPACなどでの所蔵巻号の表示には一定のルールがあります。
こちらのスライドにまとめました。

レベル3：ILLサービスの利用

◆ Inter Library Loanの略称
- 図書館同士のネットワークで他の図書館の資料を利用するしくみ
- 阪大他キャンパスの図書館、他大学の図書館、国立国会図書館 など
- 公共図書館についてはお近くの公共図書館にご相談ください

◆ お申込は阪大図書館Webサイト ＞ Webサービス から
- 取り寄せた資料は、総合図書館メインカウンターで受け取れます
  （平日9時～17時のみ）

デジタル化された資料がなく、阪大にも所蔵されていない場合は、最後の手段としてILLサービスがあります。
ILLサービスとは、図書館同士のネットワークを活用して他の図書館の資料を利用する方法です。
他の大学の図書館、国立国会図書館などもこのネットワークに入っています。

レベル3：ILLサービスの利用

1. 複写取り寄せ
   - コピーの取り寄せ（雑誌記事、図書の一部・・・）
   - 有料（複写料と送料）※学内の他キャンパスからの取り寄せなら複写料のみ
2. 図書取り寄せ
   - 図書自体を取り寄せて借りる（雑誌は取り寄せ不可）
   - 有料（往復の送料をご負担）
   - 学内他キャンパスの図書館からの取り寄せは阪大OPACの 予約/取寄 ボタンから（無料）



ILLサービスでできることについて説明します。

1つ目は複写の取り寄せです。雑誌記事の場合はこの方法を使って、コピーを取り寄せます。
他の大学からの取り寄せの場合、コピー1枚が40～50円程度、それに加えて送料がかかります。ページ数にもよりますが、1本の記事を千円以下で入手できることが多いです。
申込後、3日～1週間程度で阪大に到着します。
他大学だけではなく、大阪大学の他のキャンパスの図書館からの取り寄せもできます。こちらは送料はかかりません。

2つ目は図書の取り寄せです。 これは、他の大学から図書そのものを取り寄せるサービスです。往復の送料として、資料のサイズや郵送する距離にもよりますが、1500円程度を負担していただきます。
ただし、現物を送ってもらえるのは図書扱いのものだけです。雑誌は借りることができないので、1つ目の方法、複写取り寄せをご利用ください。

ILLサービスの申込は、附属図書館Webサイトからできます。Webサイト右上のWebサービス「文献複写・現物貸借申込み」から申し込みができます。
阪大個人IDとパスワードでログインして、必要事項を入力してお申し込みください。

レベル3：ILLサービスの利用

３．訪問利用

- 直接、資料を所蔵している図書館・研究機関に行く
- 阪大図書館が先方との間の仲介を行う
- 利用希望日の5日前までに各図書館カウンターまたは紹介状発行依頼フォームに相談
  - ✓ 貴重資料を利用したい場合はお早めの申し込みを！（2週間前までを目途に）
  - ✓ 総合図書館ではB棟2階の参考調査カウンターが担当しています

★関西大学との相互利用協定

- 関西大学（ミューズ大学図書館を除く）は予約不要
- 学生は学生証 / 教職員は教職員証または大阪大学附属図書館利用者票の提示で利用可能
- **常勤教職員、大学院生、学部学生が対象。非常勤の教職員、研究生、科目等履修生の方は訪問利用の手続きが必要**

73

ILLサービスでできることにはもう一つ、訪問利用があります。
資料を所蔵している大学図書館や研究機関へ、皆さんが直接行くというものです。

例えば、10年分の雑誌をまとめて見たい、といったときに有効な手段です。
阪大図書館が、所蔵している図書館との仲介をします。
大学図書館の多くは、ふらっと行っても入館できません。事前の申し込みが必要という図書館がほとんどです。まずは阪大図書館にご相談ください。

訪問利用は、利用希望日の5日前までには図書館のカウンターか、Webサイトの紹介状発行依頼フォームからご相談ください。
相手先の図書館とのやりとりに時間がかかりますので、日程に余裕を持ってご相談いただけると助かります。
総合図書館では、B棟2階の参考調査カウンターでご相談を受け付けます。

関西大学の図書館とは協定を結んでいるため、大阪大学の学部学生、大学院生、常勤の教職員の方は訪問利用の手続きは不要です。直接図書館へ行って、学生証や教職員証、阪大の図書館利用者票を提示すると入館できます。
非常勤の先生や研究生・聴講生の方は、他の大学と同じように訪問利用の手続きが必要ですので、阪大図書館にご相談ください。

（参考）所蔵機関を探せるツール

- CiNii Books https://ci.nii.ac.jp/books/
  国内大学・研究機関の所蔵資料の検索
- 国立国会図書館サーチ https://ndlsearch.ndl.go.jp/
  国立国会図書館・都道府県立・政令指定都市の図書館所蔵資料の検索
- カーリル ローカル https://calil.jp/local/
  都道府県ごとの図書館等の所蔵資料の横断検索
- 国立国会図書館リサーチ・ナビ 戦前期雑誌の所蔵機関

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post_737https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post_737 戦前期雑誌の主な所蔵機関の個別検索

- 全国文学館協議会 会員館一覧 https://zenbunkyo.com/members
  全国の文学館のリスト



74

訪問利用の行先を検討する際に役立つ、所蔵機関を探せるツールをリストアップしました。

これらが基本的なツールですが、雑誌や新聞はなかなか見つからないことがあります。
所蔵機関が分からないときは図書館員もお手伝いします。お気軽にご相談ください。

本日のまとめ

最後に、この教材のまとめです。

まとめ：記事情報の探索

◆ 雑誌記事情報
- 複数のデータベースを併用する（データベースによって収録情報が異なる）
- 必要に応じて紙の書誌索引・参考図書も併用する

◆ 新聞記事情報
- 基本的な探索方法は新聞データベースの活用
- キーワード検索が有効でない部分は、紙面画像を目視で確認するしかない
- 特定の記事を捜索しても見つからない場合、各本社版や地域面の存在を意識する

第1章では、雑誌記事情報の探し方をご紹介しました。
それぞれのデータベースによって収録されている情報が違うので、複数のデータベースを併用することが大切です。また、必要に応じて書誌索引や参考図書といった紙の資料も活用していきましょう。

第2章では、新聞記事情報の探し方についてご紹介しました。
全国紙の場合、新聞データベースを活用することが基本的な方法です。その際は、それぞれのデータベースについて、キーワード検索が有効な部分をよく理解して活用するようにしましょう。
特定の記事を捜索しても見つからない場合は、東京本社版以外の各本社版や、地域面の掲載記事である可能性も考慮してください。

まとめ：記事本文の入手

以下のような優先順位で調査を進めるのがおすすめ

- レベル1 デジタル化資料の有無の確認
- レベル2 大阪大学での所蔵有無の確認
- レベル3 ILLサービスの利用

第3章では、記事本文の入手方法をご紹介しました。

まずデジタル化資料の有無を確認し、次に大阪大学での紙資料などの所蔵有無を確認します。
それでも見つからなければ、ILLサービスの利用をご検討ください。

（参考）国立国会図書館リサーチ・ナビ

◆テーマや資料ごとの調べ方ガイド。調査に有用な資料・Webサイトを多数紹介している　https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi

本講習会の内容作成にあたり、リサーチ・ナビの以下の項目を参照しました。

雑誌の総目次を探す / 雑誌記事索引 / 文学作品の初出を調べる / 戦前期雑誌の所蔵機関
書評を探す / 人物文献（伝記など）を探す / 国立国会図書館所蔵の内務省交付本
プランゲ文庫の検索 / Gordon W. Prange Collection
主題書誌（関連文献リスト）を探すには / ジャーナリズム・出版に関する文献を探すには（主題書誌）
音楽に関する文献を探すには（主題書誌）
美術・建築に関する文献を探すには（主題書誌）
演劇・映画に関する文献を探すには（主題書誌）
日本文学に関する文献を探すには（主題書誌）

最後に、参考情報として「国立国会図書館　リサーチ・ナビ」というサイトをご紹介します。

これは、国立国会図書館が作っている、テーマや資料ごとの調べ方ガイドです。
今日の講義で扱ったような、探すのが少し難しい情報についても、とても詳しく紹介されています。
分野やキーワードで検索できるので、研究のヒントになりそうなガイドがないか、ぜひチェックしてみてください。

ご相談ください

総合図書館B棟2F 参考調査カウンター

- 職員がお待ちしています
- 平日9:00-17:00（事前予約不要）
- メール・オンラインでの相談も受け付けます



大阪大学附属図書館 レファレンスデスク

https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/reference_desk/

- メール・フォーム・オンラインでの相談受付中
- 附属図書館4館のレファレンス・スタッフが
  随時ご相談・参考調査に応じています

レファレンス・デスク

大阪大学附属図書館

79

ここまで見てきたように、明治～昭和期の雑誌・新聞記事については、情報が集約されておらず、いろいろな手段を使って検索するしかないというのが現状です。本日紹介した手段を活用しても情報が見つからないケースもあるかと思います。

そんなときは、お気軽に図書館職員へご相談ください。総合図書館ではB棟2階の参考調査カウンターで受け付けます。また、生命科学図書館・理工学図書館・外国学図書館の各図書館のカウンターでもお受けしていますので、お困りの際はまずはお近くの図書館にご相談ください。

参考文献など

阿部幸江（2018）「国立国会図書館オンラインの目次データを使用した資料の検索方法」『参考書誌研究』79，pp.15-59.

小林昌樹（2023）「第２回　デジコレの2022年末リニューアルをチェック！　官報編」『大検索時代のレファレンス・チップス』皓星社．2023-02-24．https://www.libro-koseisha.co.jp/webcolumn/reference_tips2_02/，（参照2024-07-01）

長尾宗典（2023）『帝国図書館：近代日本の「知」の物語』中央公論新社.

長澤雅男，石黒祐子（2016）『レファレンスブックス ： 選びかた・使いかた』三訂版，日本図書館協会.

日本出版学会関西部会編（2019）『出版史研究へのアプローチ ： 雑誌・書物・新聞をめぐる5章』出版メディアパル.

藤巻修一（2013）「『雑誌記事索引集成データベース』の誕生と機能 ： 明治初期からの雑誌記事検索を可能にした『ざっさくプラス』」『みんなの図書館』435，pp.10-18.

毛利和弘（2019）『文献調査法 ： 調査・レポート・論文作成必携 ： 情報リテラシー読本』第8版，日本図書館協会.

本講習会で使用した国立国会図書館デジタルコレクションの画像は、「国立国会図書館デジタルコレクション」（国立国会図書館）（https://dl.ndl.go.jp/）をトリミングして作成しました。

また、国立国会図書館デジタルコレクション以外のデータベース画面の画像につきましては、事前に提供元へ使用条件を確認のうえ、その許可範囲内で使用しております。国立国会図書館デジタルコレクションも含めて、データベースの操作画面やデータベース内コンテンツの画像について、本資料からの二次的な転載はご遠慮ください。

これが最後のスライドです。
E-learning教材をご覧いただき、ありがとうございました。